

共生・創造・未来
はじめよう、ここから！

福島から開会宣言

大会2日目となった本日、大震災から現在の福島に至るまでの記録が上映された後、開会宣言と共に大会がスタートしました。式では、日本精神保健福祉士協会の柏木会長より、震災のみならず生きづらさを抱える社会に対し、どのようにソーシャルワーカーとして働きかけるかという問いかけがありました。福島県精神保健福祉士会の鈴木会長からは、震災による影響問題は継続しているが、問題ばかりに目を向けるだけではなく、共に暮らしていくにはどのようなことが必要なのかという前向きな発言がみられ、福島県らしい開会宣言となりました。



大会2日

特別講演



〔発行元〕

福島県精神保健福祉士会
広報部会

項目

- 開会式
- 特別講演
- 基調講演
- 記念シンポジウム
- お知らせ

「精神保健福祉施策の動向」と題して、厚生労働省の望月聡一郎氏が講演されました。精神障害者アウトリーチ事業や、保護者制度廃止に係る主なポイントなどの説明がありました。退院後生活環境相談員については、患者さんが医療保護入院となつてから精神保健福祉士等から7日以内に選任するよう話がありました。そして、医療機関においては、可能な限り早く退院し地域で生活できるよう支援願いたい旨、説明がありました。会場内はほぼ満員となり、参加者はノートやパンフレットに細かくメモをとりながら話に耳を傾けていました。

〔基調講演〕

基調講演は、日本協会会長、浅香山病院にお勤めの柏木一恵会長からお話をいただきました。生活拠点は地域。自分らしき暮らすために地域に不足しているものは何か、地域に関与し、不足部分を作り上げるのがワーカである。という発言がありました。また、柏木会長の「つぶやき」として、会長自身のお考えや体験談を伺うことができました。そして、私たちが精神保健福祉士は、社会で求められれば求められるほど、社会の不幸が増えているという話がありました。



《記念シンポジウム》

シンポジストとして渡部氏(宮城県)、大杉氏(岩手県)、松田氏(福島県)の3名、そして助言者として藤田氏(兵庫)からお話をいただきました。避難生活は「仮の生活」、「仮の状況」はあれど、「仮の人」はいない、「仮」の中に人がいて、「仮」を「確かなもの」に、

～ お知らせ～

本日より「よってがんしょ市」がスタートしました。福島県内には約50もの事業所が集まり、それぞれ素敵な商品を持ち寄っていました。昼時には大勢の方で賑わい、広々とした飲食スペースもあつたという間に埋め尽くされました。明日6月27日も開催されていますので、お時間のある時はぜひよってがんしょ市へ立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

その人の人生を確かなものにしていくことがソーシャルワーカーである、というお話をいただきました。また、被災者が自分で改善していくための力(レジリエンス)を高めていくよう支援することが求められる、という話に、多くの方が聞き入っていました。

【訂正とお詫び】
6月25日(木)大会1日目終了後に配布致しました瓦版に脱字があつたことと、プレ企画6の内容を記載した「精神保健福祉士法」としたのは「精神保健福祉法」の誤りでした。また、同じ文章内の「障害者」としたのは「障害者」の誤りでした。お詫びして訂正します。
↓ホームページ掲載版では修正してあります